

# epoca

vol.117 2015.12

エポカ

特集

## シングルファーザーの子育て

平成 23 年度の全国母子家庭等調査によると、日本全国に父子家庭は 22 万 3 千世帯。このうち、親族等の支援がない父子のみの世帯が、約 9 万世帯あります。

父子家庭の問題が社会の中で顕在化しにくいのは、母子家庭（123 万 8 千世帯）に比べその数が少ないことで、社会に認知されないことが挙げられますが、その他にも、私たちの社会の中に根強く残る「男らしさ」というジェンダーのステレオタイプがあると思われます。

父子家庭の男親が直面せざるを得ないのが、男は仕事、女は家事・育児という男女の固定的な役割分担意識や、男は弱音を吐かない等、「男はこうあるべき」という社会から期待された役割ではないでしょうか。こうしたジェンダーに対する自らの姿勢や職場・地域など社会からのプレッシャーが、困難な環境においてもすべてをひとりで抱え込んでしまい、自身の抱える悩みを相談できない、SOS を発信しづらいという状況を生んでいるといえます。

多くのシングルファーザーたちが仕事と育児の両立において厳しい環境におかれているのは確かです。仕事上の責任を果たそうとすると、長時間勤務や出張を受け入れざるを得なくなり、育児に割ける時間が減ってしまいます。近くに支援をしてくれる親族等がない場合、自分ひとりで家事と育児を担わなくてはなりません。子どもに対し親の役割を果たそうとすると、収入の維持や出世をあきらめざるを得ないこともあるでしょう。仕事と家庭生活のすべてを抱え込んで、板挟みになっているシングルファーザーたちの中には、ストレスから健康上の不安を抱えている人も少なくありません。病気になって、経済的な自立ができなくなるという悪循環に落ち入る場合も出てきます。

シングルファーザーたちがそれぞれの職場や家庭で日々格闘しているのは、思い通りにいかない時間や家事・育児だけではなく、ジェンダーによる社会の偏見もあります。そして、そのようなシングルファーザーたちの日々の格闘の中に、これから私たちが本当の男女共同参画社会を目指すためのヒントがあるように思えてきませんか。

父子家庭は、ワーク・ライフ・バランスの理想形を模索しているといえます。個人のライフスタイルやライフサイクルに合わせた多様な生き方、働き方が可能となれば、男性も育児や家事のための時間が確保できてくるでしょう。そのためには、まず、ジェンダーの呪縛からの男性解放が必要となってくるはずです。

(M)

-----この人に聞く！

渡邊 修一さん (NPO 法人サステナブルネット代表)

●父子家庭として格闘した日々

今から15年前、渡邊さんが離婚し、幼い娘二人を引き取り、家族三人赴任先の浜松市で生活を始めたとき、それまでの仕事一筋の生活が変わった。幼い娘二人を抱え、可能な限り仕事と育児を両立してきたが、病気（腸閉塞）が原因で入院することになり、それまで働いていた家電量販店を退職することになった。その後も再就職はしたが、再び体調を崩し、腸閉塞で入院。結局その会社も辞めた。

父子家庭で、仕事と育児を両立することは並大抵のことではなかった。収入を維持しようとする長時間労働や出張を受け入れざるを得なく、子どもと過ごす時間が極端に減る。近くに育児支援をしてくれる親族もなく、ひとりですべてを抱え込んでいるうちに、ストレスから病気を発症。会社を辞めざるを得ないという悪循環となった。そこから貧困の連鎖が始まった。

母子家庭に対して、父子家庭への行政からの支援も現在と比べ当時はまだ少なかった。

父子家庭の親は、何でもひとりで抱え込み、孤立している人が多いと渡邊さんは感じている。なかなか「助けて」とSOSを出すことのできる男親がない。かつての渡邊さんもそうだった。「男はこうあるべき」というジェンダー規範が父子家庭の親たちを苦しめていると気づいた。

●社会から孤立する父子家庭のために

現在渡邊さんは、NPO 法人サステナブルネットを立ち上げ、ひとり親家庭のための学習支援や相談などの活動を行うなかで、ひとり親家庭同士のつながりや経済的自立を後押しすることを目指す。

特に孤立しがちな父子家庭が、お互いの悩みを共有したり、助け合ったりできる関係を築くことができるようなネットワークづくりを考えている。また、ひとり親家庭の子どもに支給される児童扶養手当を頼りに生活する家庭が少なくなく、子どもが18歳になって支援が切られた後、経済的な自立が難しい家庭が多い中、子どもが小さい頃から、将来を見越して支援に頼り切らない、経済的に自立した環境を作ることが必要と説く。

先日、父子家庭の大学生が父子家庭についての卒論の調査のため、わざわざ東京から浜松に来てくれたと言う。渡邊さんの所に調査に来る前に、東京都内の区役所などにヒヤリングをお願いしたところ、父子家庭の支援の実績がないという理由で断られたとのこと。

父子家庭支援がまだまだ始まったばかりと考える前に、弱音を吐けない、恥ずかしいなど、声を上げられない男親のジェンダーの問題が根深く、また、職場において子育ての価値が認識されていないという事実もあり、父子家庭で育児に追われていると、仕事ができない人とレッテルを貼られる、出世から外れるなどの問題もあると考える。

社会の中で見えにくい父子家庭の課題を顕在化し、課題解決に向かう渡邊さんの活動は、父子家庭の当事者たちだけでなく、男女共同参画社会を目指す私たちすべてに対する問いかけだ。



ブックサポーター28 シングルファーザーの子育て

『ひとり親の子育て：離婚、死別、「実質シングル」。ひとりで育てるすべての人へ。』

諸富祥彦  
WEVE 出版 2015年



親が幸せで安定した気持ちでいることが子育てにおいて大切と説く著者。親の自己受容の仕方やサポートの求め方、自己肯定感やつらいことから立ち直る力を持った子どもに育てる育児の仕方などを紹介する。

『父子家庭のお父さん奮戦記：』

母親不在の子育てに挑戦』

池田秀夫  
新風舎 1996年



がんにより妻を亡くした著者は、小学生の子どもたちを一人で育てていくことになる。父子家庭の困難さを理解されづらいなか、子どもたちと過ごした日々やひとり親のための会の運動に関わったことなどを綴っている。

『3人のパパとぼくたちの夏』

井上林子 // 作、宮尾和孝 // 絵  
講談社 2013年



父親が家事をさぼるため、家出することにしたためぐる。家出先で出会ったのは、朝パパ・夜パパと呼ばれる二人のパパとそれぞれの子どものひなとさな。めぐるは迎えに来た父親と二人のパパたちの会話から父親の思いを知り……。

ブックフェア好評開催中！

ブックフェアは、あざれあ図書室の役割を終えた本や雑誌をおひとり5冊まで無料でお持ち帰りいただけるイベントです。

【開催日】 12/11 (金) ~ 12/14 (月) 10:00 ~ 18:00 (最終日のみ 16:00 まで)

1/8 (金) ~ 1/11 (月) 10:00 ~ 18:00 (最終日のみ 16:00 まで)

3/11 (金) ~ 3/14 (月) 10:00 ~ 18:00 (最終日のみ 16:00 まで)

★あざれあ図書室の貸出カードを持っている方限定です。カード作成には、ご本人確認のできる身分証明書をお持ちください。

★なくなり次第、終了となります。



図書室利用案内

貸 出：図書5冊、ビデオ・DVD2本(2週間)  
開室時間：月～金 9:00～18:00 土日祝 9:00～17:00  
休 室 日：第1・3・5日曜日、年末年始、図書整理日  
TEL：054-255-8763 / FAX：054-255-8759

# あざれあメッセ 2015 開催されました！

～つなぐ・むすぶ・チカラになる～

10月24日(土)、「あざれあメッセ」が今年も開催されました。あざれあ全館あげてのイベント、50に及ぶ団体が、地域の特産品の販売、認知症予防セミナー、女性史講座等、出店や催し物を行い、それを通して述べ800人の来場者が、男女共同参画の考え方に触れ、学び、感じる一日でした。



歌で男女共同参画を啓発!

石臼で挽いたお抹茶を一服どうぞ!

"ビー玉ジャン"で脳トレ!

セミナー：知っておきたい認知症

骨密度測定! あなたの骨年齢は??

講座:「浜岡町史」にみる近現代の女性

県男女共同参画課のパネル展示

男女共同参画社会づくり  
宣言事業所・団体

きょうわ はっこう  
協和発酵キリン株式会社

本社(東京)  
富士リサーチパーク、CMC研究センター、  
富士工場(駿東郡長泉町)

## ■「たった一度の、いのちと歩く。」製薬会社

協和発酵キリンは、最先端のバイオテクノロジーを駆使して、新薬を継続的に創出し、開発、販売をグローバルに展開することにより、世界の人々の健康と豊かさにご貢献することにチャレンジしている製薬会社です。

## ■様々なライフイベントを乗り越えて活躍できる場を提供

産前産後休職や育児休職はもちろんのこと、短時間勤務制度や育児中の自己啓発に対する補助、出産や育児を迎えた女性社員と育児をしながら仕事に活躍している先輩社員との交流の機会を設けるなど、安心して会社に戻るための仕組みを整えています。また、女性のプロ意識・キャリア意識を高めるための階層別のトレーニングも行われており、2020年には女性経営職比率を10%以上にすることを目標として掲げています(2015年4月時点の女性経営職比率は5.6%)。介護に関しても制度の充実を図るとともに、介護セミナーを開催したり、介護コンシェルジュを置いたり男女ともに長期にいきいきと活躍できる企業を目指しています。

## ■誰もが活躍できる職場づくり

黒川昌子さんは、入社して以来約20年間研究開発に携わった後、人事担当になりました。「研究職の時は新薬を作るというゴールを目指し、日々仲間と議論しながら研究をしていました。何年もかかって新薬の創製に繋がった時には大きな喜びを感じました。目標の見えやすい仕事をしていたと思います。一方、人事系の職では当初自分の目標が見えづらかったです。でも、仕組みや制度から職員を支え、未来に向かって戦力になる人を育てることで会社に大きく貢献できることに気付いてから、意欲が湧きました」と話してくださいました。

丑木順子さんは、研究職として入社以来、一貫して体内での薬の動き(薬物動態)の研究に携わってきました。2001年に経営職としてグループをマネジメントするようになりました。「意欲のある部下に恵まれて活気があり、研究の仕事が楽しかった。トライ&エラーばかりの中で、成功した時は皆で喜びを分かち合った。患者さんから『お薬がよく効いた』と喜びの声を聞いた時は、本当に嬉しい」と語ってくださいました。2010年に薬物動態研究所(当時)の所長となられて以来、人事の裁量の範囲が広がり、責任の重さを感じつつ本人と会社の未来のために、適材適所を心掛けておられます。

「創薬は10年以上かかるし、ひとりではできない。チームで協力して作り上げる仕事だから、社員の仲間意識が強い」といきいきと話してくださるお二人から、自分の仕事と会社に対する誇りと情熱が感じられました。誰もが活躍できる環境作りを心掛けている職場であり、会社もさらに躍進されることでしょう。



黒川昌子さん



丑木順子さん



人々の健康と豊かさにご貢献することにチャレンジしています

取材：長島はるみ(NPO法人 あざれあ交流会議理事)

宣言事業所・団体 1,298件  
(平成27年11月26日現在)

まちを守るのは私。

地域の防災女子カパワーアップ講座 参加申し込み受付中

2015年  
東部 12/13 日  
12/20 日

静岡県  
下田総合庁舎

2016年  
西部 1/24 日  
1/31 日

静岡県  
浜松総合庁舎

2016年  
中部 2/7 日  
2/14 日

静岡県地震  
防災センター

2016年  
発表交流 2/28 日

静岡県男女共同参画  
センターあざれあ

詳しくは→

あざれあナビ

【お問合せ・お申込み】NPO 法人 あざれあ交流会議事務局

TEL: 054-250-8147 FAX: 054-251-5085 e-mail: azareabousai@gmail.com

地元のハンサムウーマン②

～地域力を高める女性たち～

小澤 里恵さん (株式会社ルイズビィ代表 / 静岡市)

◆アフリカの女性たちのために



小澤里恵さん

静岡市葵区七間町の「ルイズビィ」の店内には、カラフルなアフリカ産のバスケットやバッグなどが並ぶ。代表の小澤里恵さんは、2009年、ルワンダの伝統工芸品をフェアトレードで扱う会社を立ち上げた。

きっかけは前年、横浜で開催されたアフリカンフェアでルワンダ人の女性、ルイズに出会ったこと。その時、展示されていたルワンダ産のバスケットに魅せられた。と同時に、ルイズから1994年のルワンダ大虐殺で夫を失ったこと、彼女と二人の子供は生き延びたことなどを聞き、衝撃を受けた。その時のことが忘れられなくなり、その後、大虐殺のことなど、ルワンダについていろいろ調べ、自分がこの工芸品を輸入して売ること、大虐殺で夫や子供を失い、それ以降、経済的にも精神的にも困窮しているルワンダの女性たちを助けることができるのではないかと思うようになった。

それまで、結婚し二人の子どもにも恵まれ、またインテリアショップの店長として、子育てをしながら好きな仕事もやってきて、何不自由なく生きてきたにもかかわらず、何か虚しさを感じている部分があった。「自分はいつ

たい何を売っているのだろうか？」と自問していた。そんな時期にルイズと出会い、彼女に背中を押された。今は、迷いはない。このビジネスが、現地の女性たちの生活向上に貢献しているという充実感がある。ボランティア色、ビジネス色どちらにも偏らず、その両方をバランス良く取るのが「ルイズビィ」のやり方。現在は、ルワンダの首都キガリ市の16組合280人の女性たちと契約を結ぶ。ほとんどがジェノサイド(大量虐殺)の被害者である彼女たちは、対等なビジネスパートナーだ。商品のクオリティを保つために、時には厳しい言葉も投げかける。

それでも、彼女たちの住む地域に、電気が引けた、保険に入った、薬が買えた、という声を聞くとうれしい。

アフリカに魅力を感じるのは、人々のエネルギーだと小澤さんは言う。アフリカの人々のエネルギーが小澤さんのパワーの源になっている。



静岡市葵区七間町にあるルイズビィ店内

あざれあ相談

悩んだとき、困ったときには「あざれあ」へ

〈女性相談〉

すべて女性の相談員、医師、弁護士による相談です。安心してお電話ください。

0558-23-7879 賀茂

055-925-7879 東部

054-272-7879 中部

053-456-7879 西部

※混み合う場合がございます。

時間をあけておかけ直してください。

月・火・木・金 9:00～16:00

水曜日 14:00～20:00

第2土曜日 13:00～18:00

※いずれも日・祝を除く

面接

要予約・託児つき・無料

あざれあ女性電話相談の番号におかけください。

月	火	水	木	金
DV・その他暴力	偶数月第4 精神科医相談	DV・その他暴力	DV・その他暴力	奇数月第3 精神科医相談
10:00～15:00	14:00～16:00	14:00～19:00	10:00～15:00	14:00～16:00
	第1・第3 弁護士相談 (離婚・相続等) 13:00～16:00			

〈男性電話相談〉

生き方・家庭・仕事・健康等の悩み  
男性相談員が対応します。

054-272-7880

毎月第1・3土曜日 13:00～17:00

〈チャレンジ相談〉

「再就職したい」「起業したい」  
「NPOを作りたい」等

予約: 054-221-2824

完全予約制 女性限定

託児つき(無料)

偶数月第3土曜日実施:

①13:00～ ②14:00～ ③15:00～

奇数月第3水曜日実施:

①9:30～ ②10:30～ ③11:30～